

# 平成29年度 加藤学園高等学校 自己評価表(結果)

加藤学園高等学校長

加藤瑠美子

加藤学園高等学校関係者評価委員会委員長

尾崎 庸夫

## 学校教育目標

建学の精神である校訓「至誠」は人間の最も大切な心構えであり、創立以来不変の教育理念として継承されている。  
教育は、知育・徳育・体育の調和のとれた育成にあるが、徳育の最高目標として、「至誠…まごころを尽くす」を掲げ、近代的知性にあわせて、誠実で品位ある人づくりを目指す。

## 今年度の重点目標

ア 生徒一人ひとりを大切にし、豊かな心を育てる      イ 保護者・生徒が安心、満足できる学校づくり      ウ 生徒の希望に沿った進路指導  
エ 基本的生活習慣の徹底      オ 校友会活動への積極的参加、文武両道を目指す      カ 国際理解教育の推進

領域	ねらい	評価項目	達成目標	自己評価	成果及び改善点	評価	学校関係者からの意見
徳育	建学の精神の実践	目標を踏まえた学習活動を実施し、指導と一体化した評価を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶の励行。</li> <li>清掃指導の充実。</li> <li>ボランティア活動の実施。</li> <li>授業前の黒板・机の清掃の徹底を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>16名の徳育科教員と担任教員とのチーム・ティーチング授業を実施し、実技指導を充実させている。</li> <li>本年度は、講堂建設工事があり、記念館1階の使用ができず、教室での実技指導が多くなった。</li> <li>ボランティア活動を計画し地域清掃を実施した。土曜実施計画の為、部活動引率教員も多く、クラス単位での実施となってしまう。来年度は、学年全体で実施できるボランティア活動を計画していく。</li> <li>3年生に実施している「いのちのライフプラン」講座は大変好評である。</li> <li>「茶菓の接待」の単元では、実技指導の際に生菓子を出し、いただき方を実践しているため、生徒の取り組みが良い。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「考え・議論する」徳育の実践に期待したい。(小・中学校の教科「道徳」の考えを引継ぐことを検討してほしい。)</li> <li>親が経験させることができない分野を多く取り入れて、生徒たちに経験させている点は評価できる。</li> <li>昨年度と比較すると挨拶に対する生徒の意識が低くなったように感じる。</li> <li>大学生になってから、徳育教育の大切さを実感することができる。身に付いたものは一生忘れない。</li> <li>新しい先生が増えてきているので、徳育教育の本質をしっかりと引き継いでほしい。</li> </ul>
校友会	校友会活動への積極的参加	校友会活動を活性化させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>達成目標を掲げ、心身の鍛錬に励み相互の信頼関係を構築する。</li> <li>1年生は原則全員が校友会活動に入部する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>柔道部は、団体でインターハイや春選抜大会へ出場し、結果を残した。</li> <li>チアリーダー部は3年ぶりに全米大会へ出場し、優勝した。</li> <li>陸上競技部・バドミントン部・男女ソフトテニス部が、全国大会へ出場している。</li> <li>化学部は日ごろの研究成果を認められ、県庁で表彰された。</li> <li>吹奏楽部・音楽部・フォークソング部・書道部を中心に、定期演奏会や発表会等を開催し、活発に活動している。</li> <li>1年生は原則全員入部を推奨した結果、各部活動が活性化している。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の頑張りや、それを支える教職員・保護者の思いが成果となってきている。</li> <li>試合の結果に関係なく、どの部活動も日々練習している姿は、好感がもてる。</li> <li>「この部活動を加藤学園高校でやりたい。」と言って入学している生徒も多い。今後もそんな部活動であってほしい。</li> <li>運動部・文化部ともに、結果が出ている部活動があり、評価できる。</li> </ul>
基本的生活習慣	基本的生活習慣の確立	生徒の健康維持・管理の徹底を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年間皆勤・精勤賞受賞者数を全体の25%以上を目指す。</li> <li>遅刻指導を実施し、遅刻者の減少を目指す。</li> <li>日々の健康管理に気を配り、欠席者数の減少を目指す。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年生の皆勤賞79名、精勤賞48名。3年生全体の26.6%の生徒が表彰された。</li> <li>遅刻指導と下校指導を実施している。遅刻の多い生徒には個別指導を実施し、遅刻者の減少に努めている。</li> <li>各クラスに除菌ボトル等を配布し、インフルエンザ等の感染性疾患が流行しないように努めた。しかし、感染性疾患の流行を防ぐことは難しい。うがい、手洗いの励行や昼食時の換気等を促している。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>世間ではインフルエンザが猛威を振るいましたが、その中で皆勤者が卒業生の4分の1もいることは、素晴らしいことである。</li> <li>遅刻者を減らすための取り組みは必要であるが、家庭の協力もお願いする必要がある。</li> <li>保健室の取り組みは、今後も継続してください。</li> </ul>

領域	ねらい	評価項目	達成目標	自己評価	成果及び改善点	評価	学校関係者からの意見
国際理解教育	国際理解教育の充実	国際理解教育の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外への修学旅行を実施。</li> <li>短期留学を充実させ一層の促進をはかる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのコースで、ハワイへの修学旅行を実施。海外旅行を経験し、異文化に触れることが出来た。</li> <li>夏期短期留学(カナダ)への参加者は7名であった。初のカナダ留学であったが大きな問題もなく参加者にとって有意義なものとなった。</li> <li>春期語学研修(セブ島)への参加者は7名である。</li> <li>短期留学希望者には事前学習を実施し、参加者のコミュニケーション能力や交友を深める一助となっている。</li> <li>今後、グローバル教育も一つの柱としていきたい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>これからの時代に意義ある取り組みである。</li> <li>海外への修学旅行を実施することは、賛成である。</li> <li>海外研修に力を入れて人気が上がっている学校がある。本校も海外研修に関して、もっとアピールしていく必要がある。</li> <li>英語教育に力を入れることは、大切である。語学留学する生徒が増えるようなアピールを検討するとよい。</li> </ul>
教科指導	基礎・基本の確実な定着と個性を生かす教育の充実	授業改善の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部・各コースの特性を活かし「生徒一人ひとりの能力を引き出す授業」を展開する。</li> <li>教科研鑽に努める。</li> <li>授業アンケートを活用し、生徒の要望に応える。1学期末と2学期末の2回実施。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開授業を2回実施し、実技科目を含め様々な授業を見て頂けるようにしている。主な来校者は、高校1年生の保護者・中学3年生とその保護者である。</li> <li>授業アンケートを1学期末と2学期末の2回実施し、生徒からの意見も参考にし、授業力向上に努めている。</li> <li>ICTやアクティブラーニング等の新しい授業実践の為に、iPadを生徒用120台・教員用60台をレンタル導入した。教科による使用状況のばらつきはあるが、積極的に活用する教員も多く、今後もさらなる研修が必要である。</li> <li>来年度は、1・2年生全員がiPadを導入し、ICT教育をさらに充実したものとしていく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善の決め手は、生徒の思いをどう受け止め、どう返していくのかにある。</li> <li>iPadの導入は、私学ならではの取り組みの早さであると評価できる。活発に取り入れながらも、生徒と直接対話する指導も忘れずをお願いしたい。</li> <li>公開授業に在校生の保護者が参加するような仕掛けを検討してください。</li> <li>教職員の日々の研鑽が必要となる。</li> </ul>
		個に応じたきめ細かな指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>副教材を積極的に活用し、基礎学力を定着させる。</li> <li>英検・漢検・情報処理検定等の資格取得にチャレンジする。</li> <li>学習日誌を継続し、生徒個々との対話と情報収集を心掛ける。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生を中心に、学び直し教材を活用し、基礎学力の定着に努めている。</li> <li>すらら・スタディサプリ等のデジタルコンテンツの活用を積極的に実施し、学習時間の管理や模擬試験に向けた取り組みを実施した。(1年生)</li> <li>スカイプを利用しての個別英会話授業を実施した。(SP)</li> <li>検定試験については、英検や情報処理検定(2年)・ニュース検定(PG1年)を全員受検とし、多くの生徒が資格取得できた。また、漢字検定や数学検定・歴史検定等の受験も呼び掛けている。英検指導の際は、iPad等も活用し生徒一人一人の受験級に対応することができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>英会話の個別学習は非常に効果的であると思われる。個々に対応する部分において、ICTを大いに活用してほしい。</li> <li>私学ならではの取り組みを見せられる部分である。</li> <li>基礎学力の定着は、短期間でできることではない。時間がかかることであるが、これからはしつこく指導してほしい。</li> <li>変化する世の中に対応できる生徒を育てるために、教育も変化していく必要がある。常に最新情報に注目し、新しいものを取り入れていくことができるのが、私学である。</li> </ul>
教資職員向上	教職員の資質・能力の向上	校内研修の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開授業を年間2回土曜日に実施し、保護者の参加を促す。</li> <li>教科担当者は定められた期間内に研究授業を実施する。</li> <li>模擬授業(カンファレンス)の実施。</li> <li>学内の職員研修実施。</li> <li>私学人として誇りを持ち、生徒の見本となる節度ある言動・服装を常に意識する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開授業を年2回土曜日に実施した。中学生とその保護者を含め、多数の方が授業を見学し、多くの意見を頂いた。</li> <li>カンファレンスは10年目となり、一つの節目を迎えた。iPadを活用した授業を実践し、これからの新しい教育の姿を研修することができた。河合塾の先生による講話も実施し、新学習指導要領に向けた一歩を踏み出した。</li> <li>研究授業については、学校行事等の関係で計画通りに実施できていない部分もあるが、可能な限り積極的な実施を目指したい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>カンファレンスに参加し、教職員の皆さんの厳しさと温かみを感じることができた。日々の授業に生きる取り組みとなることを期待している。</li> <li>先生方のスキルアップは今後も必要なことである。</li> <li>公開授業では先生と生徒のよい関係をみることができた。</li> </ul>

領域	ねらい	評価項目	達成目標	自己評価	成果及び改善点	評価	学校関係者からの意見
進路指導	進学・就職へ向けての指導体制の確立	生徒の進学・就職希望の実現を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・始業前・放課後の補習と個別指導の実施。</li> <li>・長期休暇中の補習の実施。</li> <li>・各種検定・資格取得に積極的に取り組む。</li> <li>・特進部と進学部の一部は、一般受験に挑戦し、県内の4大学を含む国公立大学30名以上、早慶上理、GMARCIH、関関同立に30名以上の合格を目指す。</li> <li>・校内進学相談会を効果的に運用する。</li> <li>・教員の長期休暇中の外部講習への参加。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、一般受験に挑戦中である。</li> <li>現時点の進路状況</li> <li>・国公立大学は、静岡県立(2)に合格。</li> <li>・私立大学は、早稲田・慶応・上智・東京理科(5)・明治(6)・青山学院(5)・立教(2)・中央(5)・法政(6)・立命館・成蹊・成城・明治学院(5)・國學院(3)・津田塾(2)・東京女子(3)・日本女子・芝浦工業(3)・南山などに合格。</li> <li>・国公立大学2次試験に向けて、個別指導を実施。</li> <li>・校内進学相談会は70校の大学・短大・専門学校に来ていただき、3年の生徒・保護者・教職員が参加した。</li> <li>・若手教員を中心に予備校での研修を夏期休暇中に実施。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個を大切にしたい指導を感じることができる。</li> <li>・大学の情報を一人ひとりに合わせた内容で提供してくださっている。</li> <li>・自分の思い通りにいかない生徒もいたと思うが、大学進学に向けて努力する過程が大事なので、その意識向上が必要だと思う。</li> <li>・大学入試改革が実施されようとしているので、若手教員だけでなく、ベテランの先生も積極的に研修への参加をしてほしい。</li> </ul>
生徒指導	規範意識やモラル・マナーの教育の徹底から加藤プライドを育成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校則の遵守(問題行動・身なり)</li> <li>・外部からの苦情(公共の場での振る舞い)</li> <li>・校外指導状況(特別指導・自転車マナー違反)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題行動件数を前年度より減少させるため、未然防止活動に力を入れる。(定期諸検査の徹底など)</li> <li>・苦情に対する迅速な対応と発生時の全校への呼びかけや訓話の徹底。</li> <li>・毎日の校内外の指導の強化と繰り返し違反の起こらない教育的指導の工夫。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題行動件数は、昨年度19件に対し今年度20件で減少とはならなかった。校外での集団喫煙がマンション敷地内で発覚するなど他人へ迷惑となる問題行動も1学期は発生した。</li> <li>・苦情件数は、昨年度16件に対し今年度10件で減少した。</li> <li>・各々早期対応し、相手に誠意は伝えてきた。</li> <li>・自転車マナー違反については、1年生の違反が昨年よりも2.5倍で急増している。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団喫煙は残念である。保護者も把握し、改善に努める必要がある。</li> <li>・德育教育と連携していく必要がある。</li> <li>・問題が起こった時に、注目される職業であるが、生徒の為に真剣な(熱い)指導をお願いしたい。</li> </ul>
	保護者や地域住民の信頼を得られる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校時の交通事故件数</li> <li>・いじめ・嫌がらせ・暴力などの人間関係のトラブル</li> <li>・盗難のない環境整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の登下校時の校外補導や交通安全講習・自転車定期検査の実施強化。</li> <li>・いじめ対策委員会を中心に生徒の人間関係や表情・生活の変化に早期に対応する。</li> <li>・生徒自らの防犯意識の育成と盗難の発生しにくい環境づくり。(施錠・貴重品管理の徹底)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車事故件数は、昨年度17件に対し今年度は18件であった。定期検査は年間2回実施し、整備不良での事故防止はできた。自転車マナー違反の増加は事故のリスクを高めるので、やはり校外での実践指導をもっと強化、工夫していかなければならない。特に新2年生は見本になるべき存在だが、このままでは悪い見本になってしまう。県内一自転車利用者が多い学校なので、毎日の指導が必要である。</li> <li>・毎月、いじめ対策委員会を開催し、各学年の状況を学年主任間で共有し、現状の把握に努めている。</li> <li>・大きないじめや嫌がらせは発生していない。いじめ対策として年間3回のアンケートや毎月の担任チェックシートから早期発見・対応ができていていると感じる。</li> <li>・金銭盗難は昨年14件に対し、今年度は5件と減少した。特定のクラスで発生したケースもあるが、加害者を特定することはなかなか困難である。被害者の防犯意識も低く、教員の呼びかけは常に必要である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校では力を入れて指導しているようであるが、スピードの出しすぎや並走して話しながらの運転を見かけることがある。</li> <li>・生徒全体のマナー向上に向けて、生徒たちを交えて解決していくことを考えたい。</li> <li>・先生方の毎日の指導以外に、保護者にも協力してもらっての指導が必要である。</li> <li>・下校時の無灯火を見かけることがある。</li> <li>・生徒が安心して、安全に通うことができる学校であり続けるために、毎日の先生方の指導が必要である。校内での指導も必要であるが、校外での指導もよろしくお願いしたい。</li> </ul>